

ロジスティクス環境会議
第7回委員長ミーティング

2006年2月17日(金)10:00~12:00
(社) 日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) 第1期活動の総括について

- ・第1期活動アンケート調査の中間報告 参考資料1
- ・第1期活動成果の総括 資料1
- ・ロジスティクス環境宣言(案)について 資料2

2) 第2期活動概要(案)について 資料3

3) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 各委員会の活動成果の活用によるマネジメントサイクル推進(案)
- 資料2 : ロジスティクス環境宣言(案)
- 資料3-1 : 第2期活動テーマと委員会等の構成(案)
- 資料3-2 : 第2期組織体制イメージ
- 参考資料1 : 第1期活動アンケート調査報告
- 参考資料2 : 第4回本会議次第
- 参考資料3 : 各委員会の活動経過
- 参考資料4 : 第2期活動のスキーム
- 参考資料5 : 第6回委員長ミーティング議事録

以 上

第1期ロジスティクス環境会議
各委員会の活動成果の活用によるマネジメントサイクル推進（案）

各委員会で作成されたアウトプット（成果物）は、CGLメンバーがCO₂等の環境負荷とコストを低減する活動を推進する際に活用されることが期待される。

環境と調和したロジスティクス活動を展開するため、必要に応じて環境会議のアウトプットである各種ツールを活用し、継続的なマネジメントサイクルを推進していただきたい。

※以下のツールはPDCA推進の際の参考という位置づけであり、PDCAの活動全てに対応したものではないことをご了承ください。

PLAN

- ⇒ 基本的な考え方 『源流管理マニュアル』
- ⇒ 活動すべき施策 『モーダルシフト推進チェックシート・資料』

DO

- ⇒ 実施段階での他社活動の参照や活動の見直しなど
『省資源ロジスティクス事例集』
『物流の取引条件見直しによる環境負荷低減効果に関する調査報告書』

CHECK

- ⇒ 活動の定量的把握と評価
『二酸化炭素排出量算定ガイド／トラック輸送版』
- ⇒ 活動結果の報告内容など
『環境報告書における物流に関する記載内容実態調査』

ACTION

上記のフローでCO₂等の環境負荷とコストを低減する活動を計画、実施、評価する。
なお、リバースの分野については問題点の所在や課題を見出すため、以下の調査報告書を参照されたい。

- ⇒ 『業界静脈共同物流プラットフォーム構築調査』
※家電OA、自動車、食品、物流分野（主に包装・梱包資材）

その他、関連情報や用語については、以下のツールを参照されたい。

- ⇒ 用語集、関連法規、関連リンク集 など

以上

各成果物の概要（案）

『源流管理マニュアル』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業が自ら環境負荷の発生源としての認識を持ち、物流諸活動における環境負荷を最小限に留めるための管理するポイントをマニュアルとしてまとめている。

『モーダルシフト推進チェックシート・資料集』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業の担当者が、モーダルシフト推進を検討、計画する際に考慮すべき事項や関係者との調整すべき事項など、検討プロセスに沿ったチェックシート、関連データなどが盛り込まれた資料集としてまとめている。

『省資源ロジスティクス事例集』

モーダルシフト、共同物流、包装資材低減の各施策について、食品・流通分野（36 事例）
機械器具・精密機器分野（35 事例）、素材分野（14 事例）の事例を紹介している。

『物流の取引条件見直しによる環境負荷低減効果に関する調査報告書』

サプライチェーン全体としまして、省資源・省エネルギー化の推進を阻害している要因と考えられる取引条件の実態とその影響度を定量的に把握することを目的として、加工食品、家電製品等を取り扱っている企業を対象に、関係企業間におけるリードタイム、物流コスト、積載率などに関する物流実態調査を行った。さらに、取引条件を改善した場合のロジスティクスの環境負荷低減効果を定量的に推計し、取引条件の改善による環境負荷の低減効果の評価をまとめている。

『二酸化炭素排出量算定ガイド／トラック輸送版』

ロジスティクスの環境負荷として最も関心が高いトラック輸送における二酸化炭素排出量を算出するため、環境負荷指標の体系や標準的な算定方法^{*}とその事例および現時点において望ましいと思われる按分方法の考え方をまとめている。

^{*}燃料法（標準）、燃費法（準標準 1）、改良トンキロ法（準標準 2）、従来トンキロ法（簡易）

『環境報告書における物流に関する記載内容実態調査』

製造業を中心とした 180 社の環境報告書における物流に関する記載をレビューし、その記載内容をどのように改善すれば良いか、2006 年 4 月から施行される「改正省エネ法」への対応を踏まえ、まとめている。

『業界静脈共同物流プラットフォーム構築調査』

今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くため、家電・OA、自動車、食品、物流（包装・梱包資材）の分野を中心に調査活動を行い、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対しての提言をとりまとめている。

以 上

第 1 期ロジスティクス環境会議
企画運営委員会からの提案
「ロジスティクス環境宣言」(A 案)

我々、ロジスティクス環境会議メンバーは、グランドデザインに基づき、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、源流管理、環境パフォーマンス評価、省資源ロジスティクス推進、リバースロジスティクス推進のための検討を重ね、ここに成果物を作成した。

各ステークホルダーの満足度を高め、ロジスティクスの視点から企業の社会的責任を果たすため、成果物を用い、環境と調和したロジスティクス活動を推進することを宣言する。

1. 自社の物流分野におけるCO₂等の環境負荷低減の数値目標を各社で設定し、その達成に向けた取り組みを推進する。
2. 自社の企画・設計、調達、生産、販売、環境等の関係部門の円滑なコミュニケーションにより、環境に配慮した製品設計および包装、輸送等の実現に向けた取り組みを推進する。
3. 荷主企業と物流企業のパートナーシップに基づき、環境に配慮したサプライチェーンならびにリバースチェーンの構築に向けた取り組みを推進する。
4. 関係行政機関、関連団体と連携し、環境と調和したロジスティクス活動を促進する法規制、インフラの構築に向けた取り組みを推進する。
5. 自社および企業間における、環境と調和したロジスティクス活動を推進するための人材を育成する。

以 上

第2期ロジスティクス環境会議 テーマと委員会構成（案）

第2期のテーマに基づく活動組織構成として、「委員会」と「研究会」の2つからなる組織構成を提案したい。プロジェクトについては、メンバーとなる関係者の合意、確認が得られたうえで、推進したい。

1. 委員会・・・コンセプト検討や課題整理を中心とする活動
2. 研究会・・・過去の実態調査、課題整理をベースとした具体的なテーマ設定による関係者の情報交換を中心とする活動
3. プロジェクト・・・プロジェクトに係る特定メンバーによる、実行可能性の検証
※次ステップとして、グリーン物流パートナーシップ会議の補助事業等にエントリーし、具体的な展開に結び付けたい。

1. 委員会

1) グリーンサプライチェーン推進検討委員会（仮称）

(1) ミッション

環境負荷とコストを低減するサプライチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

物流に係る取引条件の見直しによる荷主企業と物流企業のパートナーシップ推進の方向性、方策、関係者への提言 など

(3) アウトプットイメージ（例）

『グリーンサプライチェーン推進ロードマップ（仮称）』など

⇒第1期活動委員会「省資源ロジスティクス推進委員会」「源流管理による環境改善委員会」

(4) 活動推進のポイントなど

- ・議論の材料 省資源ロジスティクス推進委員会の調査、J I L S総研の商慣行調査など
- ・業界や扱い製品によって取引条件が異なるため、省資源ロジスティクス推進委員会でフォーカスした製品である「加工食品・日用雑貨製品」「家電関係製品」をもって検討してはどうか。

2) リバースチェーン関連法制度提言委員会（仮称）

(1) ミッション

適正かつ効率的なリバースチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

- ・効率的なリバースチェーンを推進する法制度および手続きのあり方の検討
- ・関係行政機関と関連団体との意見交換

(3) アウトプットイメージ（例）

『関連法制度に関する提言集』など

⇒第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

(4) 活動推進のポイントなど

- ・物流関係者だけではなく、法務部門等の人材が必要となるため、既に同分野において提言等を実施している、日本経済団体連合会と積極的に連携、情報交換してはどうか。

2. 研究会 ※以下5つの候補から、3つ程度に絞りたい

1) 改正省エネ法対応研究会

- ・計画、報告の作成
 - ※報告では、併せて環境報告書等の記載内容、形式も検討
- ・改良トンキロ法による算定方法の習得
- ・環境報告書等による活動結果の第三者への情報開示 など
- ・その他
 - ※鉄道等の他モード、按分等については、「LEMS」に委ねる。

2) モーダルシフト推進研究会（仮称）

- ・モーダルシフトチェックシートの検証
- ・鉄道、内航船の活用拡大や共同化（主に複荷）の研究 など
 - ※JR貨物等への具体的な提案も可能であれば実施
- ・その他

3) 包装資材減量化推進研究会（仮称）

- ・企画・設計、製造部門に対する荷姿改善提案の研究
- ・リターナブル化（および共同利用等）の研究 など
- ・その他

4) グリーンロジスティクス支援技術研究会（仮称）

- ・データ収集ツールの活用（バーコード、RFID、データキャリア、荷札、ラベルなど）
- ・データ交換ツールの活用（EDIなど）
- ・データベースの活用（道路地図、交通情報など） など
- ・その他

5) その他研究会テーマ案

- ・自動車リサイクル部品推進に関する「緩やかな」研究会
- ・環境会計
 - ⇒LEMSまたは経営指標調査（JILS総研）
- ・その他

3. プロジェクト

※メンバーとなる関係者の合意、確認が得られたうえで、推進したい

1) 静脈物流共同プラットフォーム構築推進研究会（仮称）

(1) ミッション

適正かつ効率的なリバースチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

複数業界における共同物流プラットフォームの実行可能性の検証

- ・共同配送条件（取引条件含）
- ・情報システム（受発注、トレースなど）

(3) アウトプットイメージ（例）

『静脈共同物流プラットフォーム推進調査報告書』など

(4) 対象とする主な製品郡など

- ・家電、OA、PC、プリンタなど

⇒第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

2) 宅配便共同リターナブル包装資材推進研究会（仮称）

(1) ミッション

適正かつ効率的な静脈物流の推進するリバースチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

宅配便業界における共同リターナブル包装資材の実行可能性の検証

- ・共同化条件（コストや運用）など

(3) アウトプットイメージ（例）

①『共同リターナブル包装資材推進調査報告書』

(4) 対象とする主な製品郡など

- ・宅配便など

⇒第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

3) その他

<その他の論点>

※環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動は、「LEMS」に一本化したいがどうか。

ただし、「LEMS」における調査結果の検証などは企画運営委員会を窓口として協力、支援を行う。

※講習会（共通基盤整備委員会）については、企画運営委員会のもとに企画、運営を行ってはどうか。

※第2期では、研究会は具体的なテーマに基づき開催したいが、毎月定例的にランダムなテーマで行ってきた研究会（共通基盤整備委員会）は第2期でも継続して開催したほうが良いか。

以 上

ロジスティクス環境会議 第2期組織イメージ図

資料3-2
2006.2.17

議長:張 富士夫

トヨタ自動車(株) 取締役副会長

副議長:鈴木 武

味の素(株) 技術特別顧問

副議長:岡部 正彦

日本通運(株) 代表取締役会長

副議長:鈴木 敏文

(株)イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO

※敬称略

メンバー:

委員長:杉山 武彦
一橋大学 学長

